第８回　恵那市恵那南地区統合中学校準備委員会
環境整備・ＰＴＡ・コミスク部会　（会議録）

会議の名称	第８回恵那市恵那南地区統合中学校準備委員会環境整備・ＰＴＡ・コミスク部会
開催日時	令和６年２月１５日（木）　午後７時から
開催場所	明智コミュニティセンター　３階　講堂
議題	（１）「スクールバスの運行に関すること」について ・基本的な運行計画方針（案）と運行ルート及びバス停（案）の協議
報告	（１）部活動に関するアンケートの集計概要について
公開非公開の別	公開
出席者	委員 若森　慶隆 安藤　常雄 三宅　勝彦 太田　礼子 鈴木　則彦 安藤　真由美 川上　容子 吉田　美恵子 永田　満依子 後藤　純一 園原　正明 平林　将人 片桐　慎一 細江　幸次 松村　友美 山田　宗則 中田　憲 非　公　表 大石　佐緒理 佐藤　美保 教育委員会 丸山　頼彦 長谷川　椋 小栗　　研 横田　洋平 市川　太一
会議の内容	会議録のとおり
傍聴者の数	４名

事務局　皆様こんばんは。時間になりましたので、これから始めさせていただきたいと思います。
前回の会から少し間が開いてしまいましたけども、通学、一番これから重要なところの議題に今日から入りたいと思います。皆さんよろしくお願いいたします。
それでは、部会長様から、まずご挨拶よろしくお願いいたします。

部会長　改めまして、こんばんは。言いましたけども、年末年始を挟んでお久しぶりですといったところなんですけれども、正月から能登のほうでは大きな災害があったということで、地震が、南海トラフでしたかね。もういつ来てもおかしくないということを改めて感じさせられました。中学校のこの問題は今までずっと会議を重ねていきまして、今回の通学の件に関しては、先ほど話ありましたように重要な１項目であるということで、会議の間隔が空いたわけですけれども、また今年といいますか、これからも精力的な議論をやっていただいて、少しでも前のほうへ進んでいければなということ思っております。今日もどうぞよろしくお願いします。

事務局　それでは、レジュメに沿いまして、協議の項目のほうに入らせていただきます。ここからは部会長様の議事進行でよろしくお願いします。

部会長　それでは、協議事項に入りたいと思います。まず最初に、スクールバスの運行に関すること。お手紙等で一旦行ってるかと思いますが、これの基本的な計画方針、あるいは運行ルートの関係について、事務局のほうからお願いします。

事務局　では、すみません、私のほうから、グループ討議に入る前に、全体の方向として少しお話をさせていただきたいと思います。
では、事前にお配りさせていただきました、スクールバスの基本的な運行計画方針案という紙を出していただければというふうに思います。お持ちでない方いらっしゃいますか。大丈夫ですか。この方針は、スクールバスに関しましては、生徒の安心・安全と通学時間を考慮して、次のことを基本に運行いたしますというふうに書かれておりますが、事前にお配りしました運行ルートの案、それから全体の、どれぐらいの時間がかかりますよというような資料をお配りしておりますが、それらのルートについては、この基本的な方針案、この方針に沿って、このバスルートが今回案として作成されていると。原則として、この方針に沿って、バスルートを検討したということでございます。
では、この方針についてご説明をさせていただきたいと思います。まずは１番です。スクールバスを利用できる生徒は通学距離が片道６キロ以上としますというふうに書かれております。この話は恵那市のスクールバスの運行管理規則というものに定めがございまして、小学生であれば４キロ以上、中学生であれば片道６キロ以上の方はスクールバスによって学校に通学しましょうと、こういうことになっております。で、山岡町内でも、これまでも皆さん、徒歩もしくは自転車で通っていただいておりましたが、６キロを超える方については、今回はスクールバスで通学しようということで、案として、今、提供させていただいておると、こういう状況でございます。

続きまして、２番です。通学時間は１時間以内となるように設定をいたします。７時以降に始発のバスを出発させるといたしまして、７時５０分までには学校に到着できるように、朝の活動が行える時間には学校に登校できるような形になるように、今回スクールバスの運行の案を提示をさせていただいていると、こういう状況でございます。
３番です。全員が座れるバスの大きさ、台数の確保をいたしますというふうに書かれておりますが、もう一つ、今日お配りさせていただいております運行計画概要という、横のホッチキス止めした資料を見ていただけますでしょうか。ここで左から３つ目の大きな四角になりますが、年度、乗車人数、車両規格というふうに書かれているところがあります。ここに、見ていただきますと、大型、中型、マイクロ、ワゴンというふうに書かれておりますが、いろんな大きさのバス、４種類のバスで今回計画をしております。このバスの大きさを考えるに当たっては、当然その運行ルート上に何人の生徒さんを乗せていくかということを考えて、その中でバスの大きさを決定していくということになっております。
それから、４番目になります。今度、ルートの決め方について書かれておりますが、運行ルートは、乗車人数、通学時間を踏まえた効率的な運行ができるように設定しています。ということになっております。これにはいろんな複雑な要素が混じってくるんですが、先ほどバスの大きさのことについてお話をさせていただきましたが、そのバスの人数を乗せることでバスの大きさは決まるんですが、その決まったバスの大きさによって、通れない道とかやっぱり出てくるんですね。そのことも加味した上で、実際に、これバス業者さんのほうに現地もちゃんと行っていただいて、これは通れるだろう、ここはこのバスは通れないだろうということも加味した上で、今回ルートを、案を提供させていただいているという状況でございます。
それから、もう一つ、このバス運行ルートを考えるのに非常に大事なポイントといたしまして、中にＵターンをするところがございます。事前にお配りしました地図の中で、回転場所というふうに赤い三角形で示した場所がありますが、ここはバスがＵターンをしてくるところでございまして、安全にバスがＵターンできる場所が確保されないと、これバスのＵターンって非常に難しいことでございますので、十分な場所が確保されていることが条件になります。現地を確認して、そのＵターンできる場所があるよということを確認した上でルートの選定が行われていると、こういう状況であります。
それから５番です。バス停の位置を自宅から６００メートルの位置に設置いたします。これは、ここに書かれておりますが、中学生の歩く速さが平均で１分間に６０メートル、これ若干甘くは書いてありますが、６０メートルというふうにされておりますので、１０分程度でバス停まで通えるような範囲でバス停を設置しようというふうに考えまして、バスの位置が設定されております。
それから、６番、同じくバス停のことに関わってまいりますが、既存の路線バス、自主運行バスのバス停を原則として利用すると。これでは、このバス停の

位置を決めるにあたって、非常に重要なことなんですが、安全に停車ができて、安全な状態で乗降できる場所であること。例えば、後ろから追突されるような心配がないでありますとか、十分な道幅があって、バスの横を車が安全に通り抜けることができるような場所でないと、このバス停というのは設置が難しいものですから、基本的には、今、既にバス停になっているところを選択して、バス停の選定をしていくというところになっております。

では、もう一回、この運行計画概要書のほうを見ていただきたいと思いますが、それぞれ地域ごとに表をつくってございます。事前にお配りしました資料と若干異なりますので、一番右にＲ８における運行時間という、この項目が増えております。それは開校した年、開校する年、令和８年度ですね、令和８年度において、どれだけの時間が、最初の始発から学校までに到着する時間がどれだけであるか、かかるかということを示しております。例えば岩村には４台の車両、スクールバスが運行される予定でございますが、一番上、１号車につきましては、始発から学校に到着するまで１９分ということは、最初に乗った子が乗ってから１９分経過すると山岡中学校に着きますよということが示された表になると、こういうことでございます。あと後ろのほうに、さらに細かく時刻表が載っておりますが、これは後ほどグループで討論するときにまたお話をそれぞれからさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

では、私のほうから全体説明は終わらせていただきます。

部会長　ありがとうございました。ただ今の説明についてご質問等ありましたら、お願いします。

委員　すみません。

部会長　どうぞ。

委員　運行計画方針の５番と６番、バス停の位置を使った６００メートル以内というのと、バス停は既存の路線バス、自主運行バスのバス停を利用しますというふうにあるんですが、前にいろいろ説明会のときに、その年によって住んでる人がいなくなったり、出てきたりするわけじゃないですか。そうすると、こういう距離が必然的に変わってきますよね。そのときに、上矢作なんかそういう心配されている保護者が多かったんですけど、そのときは、例えば、こちら、地域の自主運行バスのバス停と関係するから、地域の人とも協議しながら、こう例えば変えてもらうということは可能になるんですか。

事務局　ありがとうございます。バスの運行ルートについては、原則として毎年見直しを行うという、こういうことになっておりますので、見直しを行います。で、今、示させていただいておりますのは、令和８年にスタートして、その後５年間分、生徒さんがどこに住んでらっしゃるかということを全部地図に落とした上でバス停の位置というのを検討しておりますので、まず５年間については、検討の中に入って、今回示させていただいていると。で、ルートにつきましては、原則として毎年、こういう形でよろしいかということを検討して、春に運行を開始するということになっておりますので、今おっしゃられた、ご心配いただきましたが、毎年検討することになりますよということになっております。

お願いいたします。

事務局　少し補足的にお話をさせてください。今この細かい横向きの運行計画概要書、左のほうからいくと、年度、乗車人数、車両規格って書いてＲ８というのが、開校当初の１、２、３年生のいる場所で設定した。Ｒ９というのは、その年の１、２、３年生ということで、令和１２年度まで５か年分のそれぞれ地域が住んでるところをこちらで情報を得た上で把握して選定してあるよというところまでを想定したものになっております。その途中でまた転居してきたりとか、新しい人が増えたりとか、出ていったりとか、それがありますので、さっき言ったようには、毎年もちろん見直しはしていくということになるものです。

今日この後、皆さんグループが、今まではこども園、小学校、中学校でしたけど、今日は地区ごとにさせていただいたのは、それぞれ地域ごとのルート図をもう少し細かいのを基に説明をさせていただく中で、ここはどうだとかというようなご意見をいただくのに、地域ごとのほうがやはり分かるということで、今回は地域ごとのグループ分けとさせていただきました。

そのときに、この今日お配りしています、ホッチキス止めの中に、それぞれまた地域ごとの細かなルート、そして後からお持ちします、また詳細な図面を基に、個々でまたお話をして、その中でいろんなご意見をまたテーブルに附箋、ご用意してあります。ですので、バスのこと、あと通学上のここの道路のこととか、よくあったのは、冬になったら雪が積もるからどうだとか、そういうことも併せてご意見を頂戴していただいて結構ですので、そういう形でグループごとで説明をしながら、また意見を聞きながら、最終的にグループ発表をして、こんなような意見があるよというのを皆さんで共通理解をさせていただきたいなという、そういう流れで進めさせていただきたいと思っております。

最終的には、また発表して、その状況を確認して、今後の進め方もまたそのときにご案内したいかなと思っております。まず全体説明の中で、補足的にお話をさせていただきました。

部会長　あと、よろしいでしょうか。いいですか。じゃあ、これでグループごとに討議でいいですか。

事務局　いいですね。

部会長　じゃあ、この後、グループごとに協議をしていただくということで、お願いをします。

事務局　では、職員もそれぞれ分担して入りますので、そこからお話合いをしたいと思います。

スクールバスの運行に関することについて～グループ討議～

部会長　すみません。それでは、案がというか、それぞれ話がおおよそまとまったように思いますので、どうしましょう。じゃあ岩村のほうからお願いできますか。

岩村地区発表者

はい。お願いします。岩村のバスルートで出た案なんですけれども、ルートの

変更とかはまず考えず、これはこのまま利用して、バス停とかは、やっぱりその多分いろんなご家庭があると思うので、このバスのルート内、この色つきのルート内でならバス停の変更、別に近いところじゃなくても、もう１個向こうで乗りたいとか、そういうふうな申告制というか、ルートは変えずに、そのルート上のバス停の中で乗るバス停を家庭で決めて学校に申請してというのはどうかというふうに出ました。

それで、添乗員さんがいるわけでもないですし、その人数を運転手さんが一々ここのバス停でじゃあ何人ね、ここのバス停で何人ねというような把握の仕方ではないということを聞いたので、時間になったら出る。そのここのルートでは全員乗って何人、降りるときに何人ぐらいの確認しかありませんよということを聞いたので、それだったらそれができるかなというのが。ルート内の乗る場所を家庭で決めて、申請するというのはありなのかなというのも思いました。バス停が６００メートルの半径で決められてるというふうに聞いたんですけれども、遠いところ、片道何分もかかるような遠いところだと、そういうバス、何でしたっけ、そういうバス停で、ちょこちょこ乗っていくのは必要かもしれないけれども、近いところだったら、もうちょっとその半径広げても、一律、今、６００ってもうどのルート、どの方面、明智コースも、多分、上矢作コースも、岩村も、全部そういうふうに決められてるけど、そこら辺をもう一回見直してもらってもいいのかなという。細か過ぎるから時間がかかっちゃうという。乗る時間が、何分もかかっちゃうということも話が出ました。

あとは、高校のバスが岩村だと交番前に止まるので、そこがかぶると、ここもバス停に挙がってるので、岩村の交番前のバス停のところだけは、時間を確認したほうがいいんじゃないかなというのが。この統合のほうも大型だし、高校、瑞高じゃなくて、麗澤のほうと、中京のほうも大型なので確認が必要かなということが挙がりました。

あと、下校時は基本はバスが出ると思うんですけど、それぞれのご家庭で、それぞれの理由があると思うので、それも学校は大変になるけど、申告制にしてもいいのかなって。基本はバスなんだけれども、全員がバスってなると、その習い事とか、クラブチームに行くとか、その辺があれになるので、この別のルートのバスに乗りたいわとかになるとぐちゃぐちゃになると思うので、基本は同じバス。来た、登校したバスと同じバスで乗って帰るが基本なんだけれども、そういうのが帰りできないところは申告というふうだと、帰りの問題も済むかなという話が出ました。大きく出たのはそれぐらいです。

部会長　よろしいですか。ありがとうございます。では、続いて、山岡のほうへ。お願いします。

山岡地区発表者

お願いします。山岡は、端から端になるので、ルートが。普通に考えて２便欲しいなという思う場所なんですけど。ただ、人数的に３人とか２人なので、そこで２台使うというのもおかしいかなと思うんで。今の小学校とかでも、遅バス、早バスに分けて、１台のバスを２便使ってるんです、早いバスと遅バスに

分けて。これだと１人の子を三郷寄りのほうに来てスタートさせて、その１人の子が学校を通り越して、おばあちゃん市のほうまで行って、また戻ってくる。それだったら、久保原のその三郷の側のほうの子は早便、早バスみたいな感じに乗って、学校に１回降ろしてもらってから、時間帯をずらして、１台の車で、小学校みたいに早便、遅便にすればうまく行くんじゃないかなと思って、思いました。そういう意見が出ました。

あと、山岡だと、バスに乗る子より、やっぱり歩いて学校に行くのと自転車の子が大半だと思うので、３６３の山側のほうから来る道、自転車で通ってる子たちは、本当道路と歩道の境がなくて今でも怖いという子がたくさんいて、そこにさらにバスとか、マイクロ、ワゴンとか増えてくると、危険なのかなと思うので、やっぱりその山岡は皆さんと違うかなと思うのが、やっぱり歩いてくる子と自転車の子がたくさんいるので、そういう子たちが安全に学校に来れるように考えてほしいなというのと。

あと大型バスが多いと、どうしても学校入ってくるところが狭いので、そのバス、これは僕個人的な考えというか、意見になっちゃうかもしれないんですけど、岩村さんとか明智さんは基本的に大型使うので、便数を増やしてもらって、その大型のところを半分にして、短縮すれば、もっと来る時間が短縮できるんじゃないかなと思う。そうすれば大型バスじゃなくて、マイクロとかワゴンの便があったほうがあの道幅に対しては、今よりは、大型来るよりはいいんじゃないかなというのも出ました。それぐらいですね。

あとは、一番はやっぱり学校のバスの止まる場所。最終的に止まる場所をどこにするのか。学校まで行くのか。そこをやっぱりまず、そこもそのルートと同じように並行して考えてもらわないといけないんじゃないかなと思いました。

以上です。ありがとうございます。

部会長　　ありがとうございます。では、続いて明智のほうお願いします。

明智地区発表者

はい、お願いします。明智です。まず運行全体に関してというところで、まず運行を開始する前に必ず保護者さんに、このルートで、うちはこのルートのこのバス停で乗せ降ろししたいですという希望をしっかり取ることをやっていただきたいなと思います。

それから、今、明智でもバス通学してる子どもたちもいるんですが、そこの中で通学班というのをつくったりしてるんですね。そこで、今日この子休みますとか、そういったことで、バスにこの子は乗らないよというのが分かるような状況を常に親が実際やってるんですけど。そういったところを、例えばバスをデマンド化して、運転手さんが出発前に何かタブレットで、ああ、今日このバス停のこの子休みねというようなのが分かるようにするといいなと。その関係で、車内Ｗｉ－Ｆｉとかも接続して、そしたら生徒さんもバス乗ってる時間に何かちょっとした簡単なやり取りもできるかなということもあります。

先ほどの通学班というところもそうなんですが、明智のルートの中で、串原の方が１人乗られて、で、明智に来るというルートがあるんですね、中に。そう

すると、やっぱり、いきなり明智の子と串原の子が一緒にとなると、多分、串原の子、１人で緊張しちゃうということもあると思うので、そういったバスのルートの子どもたちが集まって事前に顔合わせじゃないですけど、これからよろしくねみたいな会を持ってもらえるといいのかなと。それも合わせると事前の地域交流というとこにもつながっていきますので、つなげるんじゃないかなと思います。

運行ルートの見直しというのを１年ごととかじゃなくて、特に最初の１年目は、もう小まめに半年だったりとか、３か月だったりとか、そういったことで、運用方法だったり、そのルートの見直し、そういったものはしてほしいと思いますし、そこに、まあ言えば、最初はここのバス停使いたいわって言ったんやけど、やっぱりこっちのほうがいいですという、そういった変更も柔軟に対応していただきたいと思います。それに合わせて、親の勤めなんかの関係もありますので、行きと帰りの乗車場、下車場が変わるというところもできれば対応していただきたいと思います。

ただ、町内の道路のほうも見させていただきましたが、結構日当たりの悪い細い道というところなんかもありますので、実際にそういったところの融雪剤とかは、冬期、どういう対応をするのかな。やっぱり安全の確保はしていただきたいなというふうには思いました。

あとは、児童さんのこの印が抜けてるところだったりとか、６００メートルの枠から外れてる子たちもいましたので、それが分かって、これルート見直さなあかんのやないかというようなお話も出ましたので、それは教育委員会のほうにも話を、この道どうでしょうというご提案のほうだけさせていただきましたので、またご確認ください。

以上です。

事務局　ありがとうございます。では上矢作さんのほうお願いします。

上矢作地区発表者

はい。上矢作は、さっきもお話には出たんですけど、今回これで示された地域以外にというか、実はここバス停が欲しいとかいうこと、あと転回場があるとかないとかというのは各地区で分からないこともありますので、その辺の追加するところを追加してほしいということがあります。３地区ぐらいあるかな。

あとは、これは関係ないということがあるんですけど、そのバス停のところが、家からバス停までの間の街灯がなくて真っ暗だから、そういうところに街灯をぜひつけてほしいという要望です。

あとは、自宅から６００メートル以上あるようなバス停位置を変更してほしい。今、既存の位置を利用されるというのがあったんですけど、その変更をお願いしたいということです。

あとは、先ほども他の地区でもあったんですけど、大馬渡地区という、その上矢作からすごく離れたところにあって、串原へ行ったほうがいいとか、串原のほうが近いんじゃないかというような地区がありまして、そういうところの相談も乗ってほしいということです。

あとはバス内のＷｉーＦｉの整備というのと。あとは、さっきもこの中でありました、別地域の振興事務所で降りたいという話は、後で説明してもらえたらありがたいんですけど、帰りの、帰りで降りるところの件で、各地区にそういう拠点ができるという話をさっき聞きまして、それを言われても、上矢作は上矢作しか駄目じゃなくて、何かの都合で山岡振興事務所で降りたいとか、そういう対応。先ほどあった、部活とか習い事とか、そういった関係ではあるんですけど、そういう対応もしてほしいなということと。

あと、その乗り降り。高校か何かではＧＰＳがついてるとか、タブレットか何かで本当に乗ってるかどうかの確認のできるような対応をしていただけると、バスの運行会社にとっても多分いいと思いますし、保護者でも絶対安心できると思いますので、お願いしたいということです。

以上です。ありがとうございました。

事務局　ありがとうございます。では、串原さんお願いします。

串原地区発表者

串原地域です。まず１番は、バスの現在地が分かるようにしてほしいということで、それにつきましては、バスの時刻がここで決まっておるんですけど、例えば、ゆっくりめにバスのほうが来たときに、もう行っちゃったのか、まだ来る前なのかというのが分からんこともありますので、バス停に着くときには、自分たちでバスの位置が分かるように手配をしていただきたいなということと。

運転士さんによっては、早め早めにバスの運行をされる運転士さんもみえるとは思うので、時間にきっちり行くのは大事なんですけど、早め早めに運行されると、こっちで乗る手配のほうが大変になってきたりするので、最初にですけど、運行については、時間はあるんですけど、できる限り待ってもらうだとか、そういったことも対応していただけるとありがたいかなということを思います。

それに伴って、バス酔いする子も当然いると思うので、カーブの手前で、運転士さんによってまちまちだと思うんですけど、カーブの手前でスピードを減速して曲がってもらう運転士さんもみえれば、カーブに勢いよく曲がる運転士さんもおるかと思いますので、その辺を統一的に先に話を運行会社のほうにしておいていただきたいなという意見とかが出ました。

あとは４０分近くバスのほう乗るもんですから、いつも体が元気な状態とは限りませんので、例えばおなかが痛くなったときにトイレに立ち寄ってもらうとか、そういったこともお願いができればなということ。

あとは、ＷｉーＦｉだとか、タブレットを有効に使えるように、車内でそういったことができる仕様を考えていただきたいなということと。

あと、串原地域でよくあるんですけど、携帯電話がどうしてもつながらない場所が運行ルートの中でもありますので、そういったところは携帯電話会社の話になっちゃうかもしれないですけど、電波が常につながる、万が一のときに連絡が取れるような配慮をしていただきたいなというふうな意見が出ました。

あとは、親御さんについて、夕暮れが早いときがあるかと思いますので、お子さんをバス停まで迎えに行けないよといったときには、お子さんが歩いて帰る

子もいますけど、串原地域の特性上、どうしても暗い道になってるので、街灯のほうをバス停まで、バス停から家までの間でちゃんと明るく、見通しが利くようなふうで手配をしていただきたいなという意見が出ました。
以上です。

部会長　はい、ありがとうございました。今出た中で、例えば、この中で解決できない問題ありますね、街灯の問題とか。それらは関係部署のほうにつなぎは当然、教育委員会のほうから取っていただくということでいいですかね。

事務局　そうですね。これからね、通学ルートも変わってくるというところで、やっぱり暗くなる時間帯とか、前からお話は出てますので、ここについては１つ、これも対応していかなあかん課題かなと思ってますので、しっかりと承っていきたいと思っております。

部会長　では、活発の議論をしていただきまして、ありがとうございました。じゃあ、これを反映して、次回のとき、また。

事務局　そうですね。

部会長　どの辺りまで進めていけるかですけど。

事務局　今日はそれぞれ皆さんのテーブルで附箋を貼っていただいたものをしっかりとこちらもう一遍確認しながら、皆さんにいただいた意見で、どういうふうにまた微修正をしていったほうがいいのかなというのもこちらで整理をさせてください。それでもって、その今日出た課題等がこんなふうにできるよとか。ただ、今日で全て解決できる問題じゃない場合もありますけれども、それをまた次回皆さんに整理させてもらったものをお示しして、そこでもう一度皆さんに確認をしてもらったり、またご意見をもらったりしたいなと。こんな流れでいけばいいのかなというふうに、今日の皆さんの意見をもらった中で、今感じてるところですけれども。
今日でこれで全て終わったというふうに思ってないので、今言ったように、最終的に、例えばバス停の話ですと、今日ここにおる皆さん以外のね、本当の保護者の方々がどういうふうに感じるかということもありますので、その辺も今日意見聞きましたので、どういうふうに最終的にこう持っていけばいいのかなというのも事務局で案を考えて、また次のときにまたお話をさせてもらうと、そういうふうにしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

部会長　いいでしょうか。じゃあ、３番目のその他、お願いします。

事務局　１点だけ、その他で、はい、お願いいたします。

事務局　前回の会議で部活動のアンケートについて皆さんに協議していただいて、その後、進捗状況を今日お伝えしたいと思います。１月末から各小学校、中学校でアンケートを取ってもらいました。それぞれ、都合もあり、ようやく全ての学級、先週終わりましたので、まだ今日は速報値を口頭でお伝えしたいと思っています。
小学校の４、５、６年生に取ったアンケートですが、総勢３１３名のアンケート回収ができました。部活動について入りたいと思っている子どもたちが２６７人で、８６％の小学生が部活動に入りたいという願いを持っていました。入

りたくないというのは４４人で１４％でした。具体的な理由は、また次回、詳細をお伝えしたいなと思っていますが、入りたくない理由としては、苦手だから心配だなというような意見が多くを占めていました。

続いて、小学生に取ったアンケートの中の、あったら入りたい部活動について、上位３つ、今日はお伝えしますが、１位はバトミントンでした。２位はバスケットボールでした。３位は家庭科クラブ。裁縫や手芸や料理といったものが上位を占めました。

続いて、中学生に取ったアンケートです。中学生は中１、中２、中３、３１７名のアンケートの回収ができました。現在所属の部活動に対して満足していると答えた生徒は２３４人で、全体の７４％でした。満足していないと答えたのは８３人、全体の２６％でした。理由も様々ありましたが、特に満足していると答えた生徒の大半が、先輩、後輩を含めた仲間関係を答えていたのが特徴的でした。一方で満足していないと答えていた生徒の特徴的な回答としては、やっぱり活動時間が少ないなと、もう少し活動したかったなというのが意見としてありましたが、詳細についてはまた次回お伝えしたいと思います。

中学生に、あったら入りたかった部活動を聞きました。ここでも上位３つをお伝えします。断トツ１位はバトミントンでした。２番目は家庭科でした。３番目は美術でした。ということで、現在の中学生がイメージしているのは、バトミントン、それから、あとは文化系がやっぱりあったら欲しかったなという意見が上位を占めました。また特に中学生にとっては、今の部活動のついて思いも聞いていますので、その辺りは次回、また子どもたちの感想を皆さんにお伝えしたいなということを思っております。

簡単ですが以上です。

事務局　今の話で、速報値的に今お伝えさせていただいたので、またこれ、まとめたものを次回に出せれるかなという感じで、それを整理して、こんなふうにしていくよというのを、また、しっかりと口頭だけじゃなくて、お示ししたいと思います。よろしくお願いします。

部会長　その他はよろしいですか。

事務局　そうですね。

部会長　では、次回のこの部会の予定ですが、お願いします。

事務局　次回は、日にちを部会長さんたちとご相談させて決めさせていただきました。３月７日木曜日にまた７時からですけれども、開催させていただきます。３月７日木曜日ですね。会場は、順番からすると今度、上矢作で行わさせていただきますので、よろしくお願いいたします。またご案内は正式にお渡しさせていただきますが、まずは今日お知らせさせていただきました。よろしくお願いいたします。

部会長　では、次回は今回受けたスクールバスの計画について、再度の協議ということでお願いをしたいと思います。長時間にわたりまして、大変ありがとうございました。

事務局　ありがとうございました。お疲れさまでした。

事務局　　では、今日はこれで終了させていただきます。皆様お疲れさまでした。ありがとうございました。